

「里山ビオトープ二俣瀬」の概要等について

＜概要＞

「里山ビオトープ二俣瀬」は、山口県宇部市北部の中山間地域（標高20m程度）に位置する面積0.48ヘクタールの休耕田を活動して造成されたビオトープです。

当該施設は、ため池、湿地、草地といった里山環境が維持されており、その周辺にはクヌギ・コナラなどの二次林が広がるほか、準用河川須賀河内川が隣接しており、ため池や湿地はこの川から取水しています。

また、施設内及びその周辺には、動物200種類以上、植物100種類以上が確認されています。（以下、これまで確認された動植物の例）

哺乳類：ノウサギ、カヤネズミ、両生類：アカハライモリ、ニホンヒキガエル

爬虫類：ニホンヤモリ、ニホントガゲ、昆虫類：チョウトンボ、ツチイナゴ

魚類：ドジョウ、ミナミメダカ、甲殻類：スジエビ、モクズガニ

貝類：マルタニシ、カワニナ、鳥類：アオサギ、ダイサギ

植物：ノビル、ツワブキ

＜経緯＞

平成12年に山口県の「厚東川水系水環境21創造事業」として、宇部市二俣瀬地区の休耕田を活用し、自然浄化池の整備等によりビオトープ（生物の生息・生育する空間）を造成することが決定され、山口県支援のもと、地元住民やボランティアで構成する「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」により、ビオトープの企画・設計、造成工事及び施設整備が行われ、平成14年に完成しました。

その後、「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」が施設の維持管理や、環境学習の一環として里山の自然・暮らしを体験学習する自然観察会（昆虫・野鳥観察、稲作体験等）を実施してきました。

しかし、つくる会が会員の高齢化等を理由に令和5年度末をもって活動を終了したため、令和6年度に、本市が事務局を担う「里山ビオトープ二俣瀬ふれあいの会」を結成し、施設の維持管理及び自然観察会を継続しています。

今後はこれまでの活動に加え、小中学生等の環境教育や企業等の生物多様性保全活動の場、市民の憩いの場としての活用を促していく予定です。